

左 いまい・ひろと 数学科。國學院大學久我山中学・高校に36年間勤務。同校の卒業生でもある。

撮影 國學院大學久我山中学・高校にて

右 みと・はるひこ 数学科。初任以来、國學院大學久我山中学・高校に勤務。今年度で勤続25年。



きつと今井先生もそれが狙いで、私を合宿に連れ出したのだと思います。

こうした1、2年目の経験が、今でも私の糧になっています。

悔しいけれど似てしまう

あれから25年が経ち、今井先生は教頭になり、私は学年主任を担当するようになりました。今では私が若い先生方をまとめ

ていかなくはならない立場になつたわけですが、心掛けているのは先生方が気持ち良く仕事を出来るように、先生方の思いをくみ取り、それを上にしつかりと伝えていくことです。

実はこれも今井先生から学んだことです。先生が学年主任や学科主任(*)を務めていた時、私たちの思いを代弁して、管理職に直言してくださいました。

とが何度もありました。「当時の私は今井先生に守られていたんだな」と感じますし、今度は私が同様な役割を果たす番だと思えます。そう考えると、私はずっと今井先生をモデルにしなから、走り続けてきたように思います。ですから私が何かする時には、どうしても今井先生のスタイルと似てしまうんですね。悔しいんですけど(笑)。

今は「技は見て盗め」というやり方ではなく、口で言わないと分かってももらえない部分も多いのですが、私が今井先生から見て盗みながら育ってきたように、若い先生方にも見て感じて欲しい、つかんで欲しいと思います。私が先生から学んだことを、少しでも次の世代にバトンタッチすることが出来たらうれしいですね。

が新人の時から合宿に連れて行かれて、理系クラスの3年生を相手に数学を教えることで鍛えられたからです。

私は、将来学校の中心として活躍して欲しい若い教師に対しては、学年主任や学科主任である先輩の教師が、責任ある仕事を与えることが大切だと思っています。

例えば一般に3年生の担任は、受験への対応からベテラン教師を配置しがります。しかし本来であれば「高校卒業時には生徒をここまで引張り上げることが求められる」という出口をイメージできない教師が、入り口に当たる高1生(中高一貫校である本校の場合は中1生)を指導できるわけがありません。

もちろん管理職からは「この先生は、3年生を受け持つには若すぎるのではないか」という不安の声が出てきます。でもそこは「大丈夫です。彼はやってくれます」と踏みとどまる。そして学年主任として、何があっても若い担任を支える覚悟を持つのです。

先輩は後輩に場を与え、後輩は先輩の姿を見て学ぶ。そういう環境の中で、若い人たちは育っていくものだと思えます。

*同校では教科主任を「学科主任」と呼ぶ。